

嶺南地域共創センタープロジェクト×教育学部授業「学校体験学習」 知の創造 in ちえなみき

人生100年時代の「まなび」によるまちづくり・人づくりシンポジウム 開催しました

3月20日(水・祝)、プラザ万象(敦賀市)において『人生100年時代の「まなび」によるまちづくり・人づくりシンポジウム』を開催しました(主催:敦賀市 共催:福井大学教育学部・嶺南地域共創センター、放送大学福井学習センター、丸善雄松堂株式会社)。基調講演では、幅広い層を対象としたまなびの事例として放送大学福井放送センターの小野田信春氏ら、また、地域からの学びの創発事例として香川県善通寺市、宮崎県三股町にも登壇頂きました。パネルディスカッションでは三菱UFJリサーチ&コンサルティングの山本雄一郎氏をファシリテーターに向かえ、大日本印刷の山川祐吾氏らとともに、持続可能な未来を築くための新たなまちづくり・人づくりの視点を考えました(下記、敬称略)。



基調講演A
岸 俊行(福井大学・放送大学)

「VUCAの時代と言われている今、どんな能力が求められているのかを考えることが大切です。みんなで同じものを作っていく“協働(学習)”から、これからの時代は、無から有、すなわち、新しい価値やそのプロセスを作り出す“共創(教育)”が求められると考えます。」



基調講演B
小川 明(敦賀市)

「成熟社会においては“知的探求、あるいは創造性”が、人々にとって、大きな喜びの1つになっています。このような社会においては、単なる本を売るのではなく、コミュニティをまとったブースエリアを作ることが、行政としての役割ではないかと感じます。」



基調講演B
嘉瀬井 恵子(福井大学)

「これからを背負って立つ若い学生、特に教育学部生にとって、“今の教育の何を残し、何を变えなければならないのか”主体的、対話的に考えることは重要です。本、ちえなみきを通じた“成長を促し、多様性を尊重し、関係性をつなげる取り組み”を引き続き行って参ります。」



パネルディスカッション
鈴木 康友(丸善雄松堂)

「(拠点の使用方法等を過剰に規定・区分することなく)日本らしい学びの仕方を支援できればと思っています。提示したいのは“戦略的に曖昧にする”拠点の在り方です。その曖昧さを下敷きにして、敦賀、ちえなみきの学びであったら、どんなカラーを付けることができるのかを考えていきたいと思っています。」

編集後記

シンポジウムの当日は昼過ぎから、雨風ともに強くなりました。荒天でお足元が悪い中、多くの方にお越し頂きました。また、祝日にも関わらず、オンライン配信にてご視聴下さいました皆さまに、この場をお借りして、心から御礼を申し上げます。そして、シンポジウムの開催にあたっては、ご準備に多くのお時間を使われたであろう敦賀市さん、丸善雄松堂さんに御礼を申し上げます。1年間、学生に伴奏して下さいましたメンターの橋詰拓幸さん(敦賀市)、ありがとうございました。



シンポジウム会場前の
学生成果物の展示

【編集・発行】 嘉瀬井恵子(福井大学地域創生推進本部附属嶺南地域共創センター)
【住 所】福井県敦賀市金輪町1-3-33 福井大学附属国際原子力工学研究所内
福井大学 地域創生推進本部附属嶺南地域共創センター 0770-48-0964